

運動の重点 4

飲酒運転の根絶

■全死者数130人のうち飲酒別死者9人
※平成23年下半期(7～12月)



運転者には

飲酒運転の危険性や責任の重大さをしっかりと認識し、飲酒運転を根絶しよう。

家庭では

飲酒運転の危険性、飲酒運転による交通事故の悲惨さなどを話し合い、家族ぐるみで飲酒運転を根絶しよう。

職場では

企業の責任として、ハンドルキーパー運動を展開するなど、飲酒運転の根絶を徹底しよう。

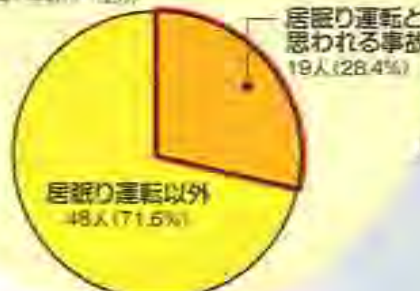
地域では

酒類を提供する飲食店などでの運転者への酒類提供の禁止を呼びかけよう。

運動の重点 5

居眠り運転による交通事故防止

■正面衝突や車両単独事故での死者数67人のうち、居眠り運転と思われる事故による死者19人
※平成23年下半期(7～12月)



運転者には

長時間の無理な運転はしないで、2時間毎に1回以上の休憩をとろう。

家庭では

眠気を感じたら安全な場所で短時間の仮眠をとるなどし、無理な運転はしないよう話し合おう。

職場では

疲労や睡眠不足にならないよう体調管理に気をつけてベストコンディションで安全運転を実践しよう。

地域では

眠気を起こしやすい単調な道路などで、啓発活動を実施し、事故防止を呼びかけよう。

平成24年

秋の全国交通安全運動

9月21日金～9月30日日 北海道実施要綱



交通事故でお困りの皆さん 交通事故相談所をご利用ください。

道における交通事故相談窓口	場所	交通事故相談(無料) 北海道庁1階 電話 011-204-5220(内線) FAX 011-232-7462 FAX 050-3533-4703(北海道内) 050-3533-4704(北海道外) E-mail kensho.dousai21@pref.hokkaido.jp
	利用時間等	9:00～17:00 月～金曜日(受付8:00～16:30)
	場所	弁護士相談・巡回相談(無料) 予約制 札幌市 電話 011-20-0044 旭川市 電話 0138-47-9435 上川郡 電話 0166-46-5923 下川町 電話 0152-41-0783 紋別市 電話 0154-43-9151 網走市 電話 0155-25-9249
	受付時間等	9:00～17:30 月～金曜日(受付8:00～16:30)



運動の重点

- ①子どもと高齢者の交通事故防止
- ②夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止
- ③全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- ④飲酒運転の根絶
- ⑤居眠り運転による交通事故防止

[全道統一行動日] 9月21日金セーフティコール

[交通事故死ゼロを目指す日] 9月30日日

主催

北海道、北海道庁、北海道教育委員会、札幌市、南支庁、公益社団法人 北海道交通安全推進委員会、財団法人 北海道交通安全協会、社団法人 北海道交通安全推進協会

居眠り運転防止 ～ 2時間毎に休憩しよう。



デイ・ライト運動を実践しよう。

の～んびり いこや 北海道



運動の目的

交通安全を自らのことと捉え、交通ルールの遵守や思いやりのある交通マナーの実践が主体的に行われるよう、道民一人ひとりの交通安全意識の高揚を図る。

運動の進め方

道、道警察、市町村、関係機関・団体などは緊密に連携し、体系的かつ効果的な交通安全運動を展開するとともに、参加・体験・実践型の交通安全教育を推進する。

通年運動

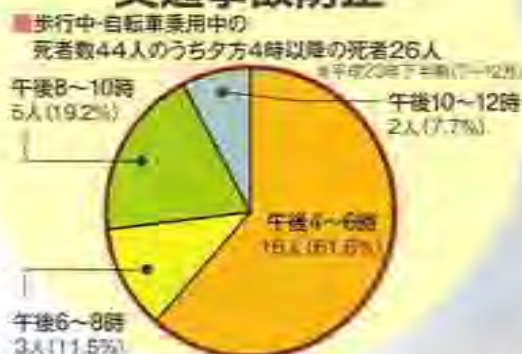
7大セーフティキャンペーン

- 高齢者事故防止
- 自転車走行ルール・マナーアップ
- シートベルト全席着用
- スピードダウン
- 飲酒運転根絶
- 居眠り運転防止
- デイ・ライト実践



運動の重点②

夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止



運転者は

夕暮れ時から夜間には、歩行者などの発見がしにくくなるので、交差点では徐行し、しっかり安全確認しよう。

家庭では

夕暮れ時や夜間に外出するときは、明るい服装と夜光反射材を着用しよう。

学校では

自転車の通行方法や夜間における前照灯の点灯など、自転車の正しい利用の仕方を身につけさせよう。

職場では

デイ・ライト(車間点灯)の活用を徹底しよう。

地域では

夜光反射材の普及と着用の促進に努めよう。

運動の重点①

子どもと高齢者の交通事故防止

全死者数130人のうち高齢者の死者71人・子ども(小学生以下)3人



運動の重点③

全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

全死者数130人のうち自動車乗用中の死者73人



運転者は

全ての座席の同乗者にシートベルトとチャイルドシートを正しく着用させよう。

家庭では

出かけるときは、全ての座席のシートベルトとチャイルドシートを正しく着用させよう。

学校では

全ての座席のシートベルトとチャイルドシート着用の必要性について理解させ、実践させよう。

職場では

全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの着用100%を実現しよう。

地域では

シートベルトとチャイルドシートの着用効果や全席着用の必要性などについて啓発しよう。

運転者は

子どもや高齢者を見かけたら、徐行するなど思いやりのある運転をしよう。

高齢者は

参加体験型の講習会などに積極的に参加し、自分の身体能力の変化を認識し、安全な行動に努めるとともに、夜光反射材を身につけよう。

家庭では

子どもと一緒に通学路などを歩くなどして、交通ルールの手本を示し、マナーを身につけさせよう。

学校では

登校時間中に通学路での交通安全指導を徹底しよう。

地域では

交差点などで、子どもや高齢者を見かけたら声をかけ、安全な横断を手助けしよう。